

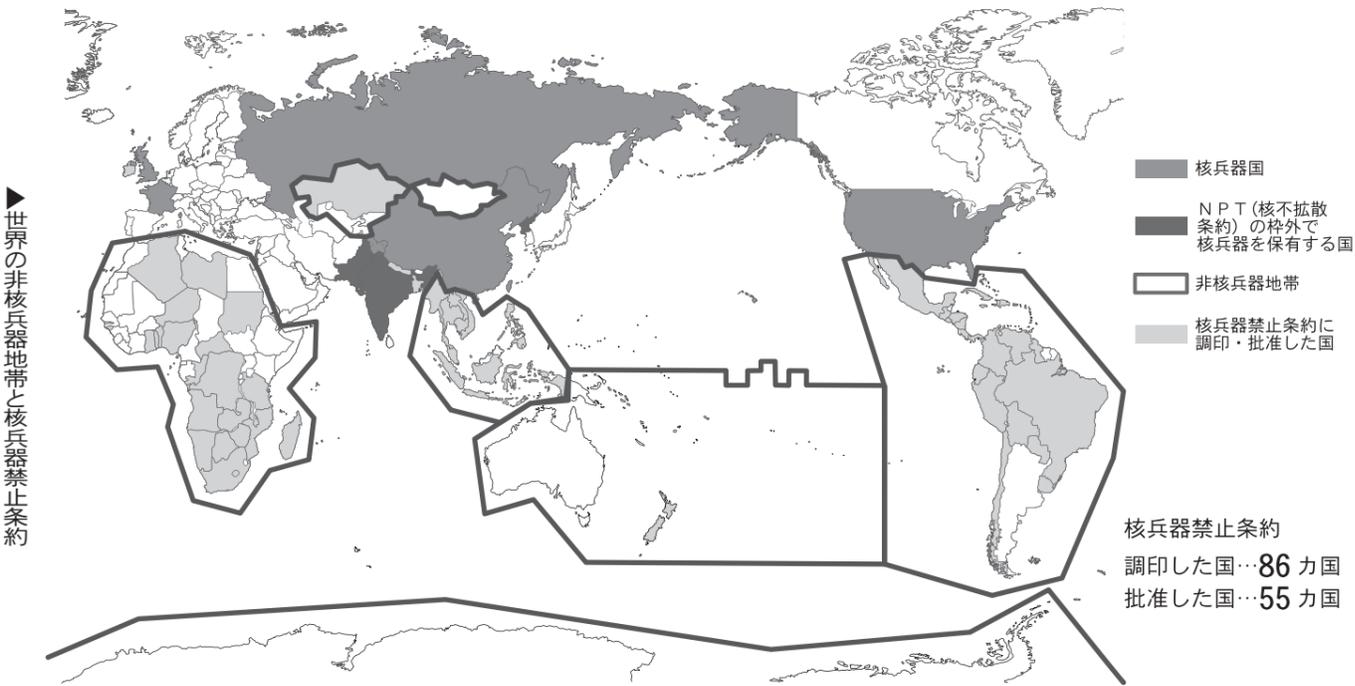
民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

内閣官房機密費問題 原資は税金「知る権利」の保障を(3面)
私たちが核廃絶の歴史を刻む 第48回全国高校生平和集会 (6、7面)
青年に広がるギグワークの実態と背景 (10、11面)

核兵器のない「新しい時代」へ



原水爆禁止日本協議会「手をつなごう 核兵器のない世界と未来へ」などを基に作成

広島、長崎への原爆投下から76年、原水爆禁止2021年世界大会がオンラインで開催されました。今年1月に核兵器禁止条約が発効され核兵器が史上初めて国際法上「違法」となった下での歴史的な大会でした。大会の様子と、大会に参加、視聴した青年を取材しました。(文中は一部仮名、太田良真記者)

核兵器禁止が現実になりつつある

今年の世界大会は、新型コロナウイルスの感染が世界的にも広がる中でオンラインでの開催となりました。

原水爆禁止2021年世界大会

今年各地で視聴会が行われ、8月2日の国際会議、6日のヒロシマデー集会、9日のナガサキデー集会や各種現地企画を合わせた総参加者は9千人と発表されました。多くの命を奪い、放射能の犠牲を生み、人類の存続さえおびやかしてきた核兵器が「違法」とされる核兵器禁止条約が1月22日に発効し、2022年1月には核兵器禁止条約に批准した国々と市民が集う第一回締約国会議が開催される(その後3月に延期)という歴史的時期に行なわれました。核兵器禁止条約を力に核兵器をどう現実的になくしていくのか、多くの政府代表や各国で活動する市民が発言・交流する「新しい時代の幕開け」を感じさせる大会となりました。

核廃絶を求める世界の声

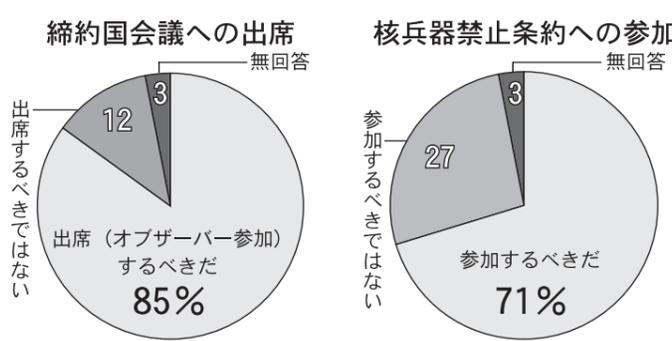
核兵器禁止条約は、今年7月時点で批准国が55、署名国は86まで広がり、核兵器のない世界に向けた連帯を国際的につくり出しています。9日のナガサキデー集会で、アジアヨーロッパ人民フォーラム国際組織委員のティナ・エプロー氏は、「原爆投下からこれまで、被爆者の体験と希望の声を、『人類と地球は核兵器とは共存できない』、『この恐ろしい大量破壊兵器は私たちの生きていくうちに完全に廃棄しなければならぬ』という私たちの意識を高め、決意を固くしてき

「主権者声明」で「禁止条約の署名、締約国が世界に広がれば広がるほど、核兵器の違法性はますます確かなものとなります」と述べられていくように、核兵器が違法なものという認識が広がるのが、核抑止力

核兵器禁止条約は、今年7月時点で批准国が55、署名国は86まで広がり、核兵器のない世界に向けた連帯を国際的につくり出しています。9日のナガサキデー集会で、アジアヨーロッパ人民フォーラム国際組織委員のティナ・エプロー氏は、「原爆投下からこれまで、被爆者の体験と希望の声を、『人類と地球は核兵器とは共存できない』、『この恐ろしい大量破壊兵器は私たちの生きていくうちに完全に廃棄しなければならぬ』という私たちの意識を高め、決意を固くしてき

「主権者声明」で「禁止条約の署名、締約国が世界に広がれば広がるほど、核兵器の違法性はますます確かなものとなります」と述べられていくように、核兵器が違法なものという認識が広がるのが、核抑止力

核兵器禁止条約を支持する日本の世論



※四捨五入のため合計は100%にならない
「東京新聞」(2021年8月1日付)を基に作成